カウンセリングルームだより　第７号　　ＨＰ用

こころ

スクールカウンセラー
吉　澤　克　彦

令和２年 10 月

學（学）と幸

「學」という漢字があります。現代日本では、「学」です。旧字の上の両側は手のひら。真ん中の××は、しっかりと織られた布をあらわし、転じて「しっかり」という意味です。下側は、屋根の下で子供が守られている姿を現しています。子供は、いつの時代でも守るべき存在なのです。

この字は「mana-bu」と読み、「学力」「学校」等と使っている現代。将来を担う子供をしっかり守り育てるという意味で、ふさわしい使用であると言えます。

この話は、**『感じの漢字』高橋 政巳著（扶桑社）**から引用しました。他にも、たくさんの漢字について、素敵な紹介がなされています。

その中でも、後書きにある**「幸」**（siawase)の解説に感銘を受けました。（下写真）

「幸」は、手錠された人の姿を表したものなのだそうです。

「幸せ・幸福・幸運」などを意味する「幸」が、どうしてそんなに悲しい姿を表したものなのでしょう。

人それぞれ、幸福感は十人十色。そんな「幸せ」をたった一文字で表すのは難しい。そこで、作り出されたのが右の写真の「幸」。囚われの身となり手錠さられた姿です。

自由を奪われ、家族や恋人、友人とも二度と会えない、哀れな姿。人間としての尊厳を剥奪され、苦しみと、悲しみと、そして死の恐怖に怯えているかもしれません。

この字は、「幸せ」とは真逆のイメージで作られました。ダイナミックな発想の転換。

幸福の追求は際限がない。本当は幸せなのに、もっと、もっとと、追い求め、自分はまだ幸せではないと思ってしまうことの不幸。青い鳥は、ここにいるのに、そばにあるのに気付かない。

「幸」の語源を知ったなら、見失いがちな大切なものに気付くのではないでしょうか。

何がなくとも、私たちには自分で決める、自分で選択する自由があり、命がある。小さいことにも感動できる心がある。知りたいこと身につけたいことを学ぶ自由もある。

「幸」は、そういうことに気づき原点に立ち戻ることを教えるための「漢字」であるともいえます。

今現在皆さんは、希望に充ち満ちあふれていますか。逆に、悩みや健康不調のまっただ中にあって苦しんでいるのでしょうか。もし、そう感じていたとしても、今生きているという原点に立ち戻ったときに、希望や未来の可能性はすぐそばにあるはず。

周りを見渡してみてください。守ってくれる家族やともに歩んでくれる仲間、ちょっと踏み出せば寄り添って考えてくださる先生方など、誰かしらがあなたのすぐそばにいるのです。

コラム：私は、金八先生世代です。加藤が校内で逮捕され連行されるシーンで流れる中島みゆきの「世情」は、今でも私のベストソングの一つです。ところで、第８シリーズ 14 話で「親」という漢字を金八先生は「親という字は、木の上に立って（子を）見る」と書くと言うシーンがあります。確か父親に説教している場面でした。生徒を思い親にも体当たりで接する教師像がすがすがしかった。

また、「息子」という字は、親にとっては、自（分）の心だという場面もありました。子を心配しない親はない。子供一人一人の人格を尊重し、しっかり子と向き合う親でありたいですね。